

令和8年度第1回文化振興審議会

日時：令和8年7月3日(金曜日) 午後2時30分から午後4時30分

場所：柏市郷土資料展示室

出席者

委員：鈴木 将勝会長，林 久美子副会長，安久津 素子委員，田嶋 勉委員，野尻 幸子委員，波木 香里委員，福永 明子委員，本間 明委員，山田 潤一委員

事務局：宮本部長，吉田課長，本間課長補佐，大神係長，小野主事，中島主事，木村主事

会議次第：

- 1 開会
- 2 生涯学習部長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 報告事項
(1)「令和7年度芸術文化事業について」
(2)「令和8年度芸術文化事業について」
- 5 協議事項
「今後の柏市の文化振興について」
- 6 その他
- 7 閉会

会議概要：

- 4 報告事項(1)「令和7年度芸術文化事業について」
(2)「令和8年度芸術文化事業について」

●事務局

資料1-1，1-2，2に沿って報告

●鈴木将勝会長

事務局からの報告について，ご意見や質問等があればいただきたい。

●山田潤一委員

「かしわ塾」について，参加者の減少とあったが，徐々に減っていつているのか，それとも今年だけ大きく減少してしまったのか聞きたい。

●事務局

令和6年に82人にまで減少し，昨年143人まで回復したが，今年再び100人を割って99人となってしまった。一部の学校では，土曜参観の日程と被ってしまっていた。また，部活動の廃止や地域移行が大きな要因と考えている。今年も地域クラブのKSCAと連携し参加を呼びかけたが，そもそも吹奏楽をやっている児童生徒が減っている状況。現在は吹奏楽経験のある小学校6年生から中学生を対象としているが，部活動も廃止となっているため，吹奏楽経験のない初心者等への対象拡大について，顧問の先生から提案をいただいている。市立柏高等学校とも意見交換をしながら取り組んでいく予定。

●鈴木将勝会長

講師として参加いただいている田嶋委員からも，ご意見があれば伺いたい。

●田嶋勉委員

全く楽器に触ったことのない初心者も取り組めるような企画になると良い。楽器に触れるだけでも，子供たちにとって大きな経験になるはずである。小学校低学年や，幼稚園児でも良い。

せっかくいい企画なので、これからも続けていってほしい。

●鈴木將勝会長

美術の観点からは何かないか。

●事務局

令和8年度の芸術文化事業の中で、今年は千葉県立美術館との共同企画を行う。現在作品を選定中であるが、普段は見ていただく機会がないような作家や、柏に所縁のある作品を展示する予定。

●事務局

協議事項「今後の柏市の文化振興について」に入る前に、今回の議題を郷土資料展示室の活用の方針としていることから、現在の展示状況をご覧いただきたい。

(展示担当職員より、芹沢銈介及び企画展のテーマについて簡単に説明。)

<15分程度自由観覧(職員解説あり)>

5 協議事項

「今後の柏市の文化振興について」

●事務局

資料3、4、5に沿って報告

●鈴木將勝会長

事務局による説明を踏まえ、ご意見、ご質問を伺いたい。

●山田潤一委員

素晴らしい展示であったが、より発信した方がよい。高等学校では、探究学習というものを行っている。答えのない問いを自ら立て解決するものであり、多くの学校が修学旅行で行く沖縄をテーマにしている。今回の展示テーマである沖縄へのまなごしの作品は、沖縄の戦後の風景を描いた作品が多くあり、高校にとって良い教材になるのではないかな。

そして立地も問題である。コミュニティバスが出るとよい。郷土資料展示室は、商業施設へ向かうバスの途中にあるため、立ち寄れる魅力のある場所にできるとよい。

●安久津素子委員

郷土資料展示室の認知度が低いという印象が第一である。そしてアクセスが悪く、なかなか足を運ばない。同じスペースでワークショップを行ったりと、いくつか同時進行で行い、ついで見るとかついでに聞くとか、そういったやり方もよいのではないかな。

また、柏の文化会館もそうだが、近くに飲食のできる場所があると嬉しい。

●波木香里委員

検討項目に外国人対応が入っていないことが気になる。芹沢銈介の作品は、海外のかたが興味を持つような、日本独特の感性が光る作品であるため、外国語対応をし、そちらにもアピールをした方が、来館者数は増加するのではないかな。SNSや、アート系ウェブメディアをうまく活用していくとよい。紅型染めトートバック製作のワークショップを、この郷土資料展示室で開催するのも良いと思う。

●福永明子委員

まず、事業計画、実績も含め、音楽系はかなり充実しているが、美術系は充実せず、今までの踏襲という印象。自身はアートラインかしわに携わっているが、そのアートラインの動きと

一致しておらず、勿体ない。アトラインと絡めて欲しいというのが正直な意見。

それと、今日芹沢展を拝見し、美術館があれば一番感じた。美術館があり、芹沢展が小さくでも常設としてあると良いと思う。欲を言えば、駅前に美術館が欲しい。寺嶋さん(摘水軒記念文化振興財団)のコレクション作品をいつでも見られる状況が駅前にあると良い。それが現実的でないとしたら、ここを活用する問題としては、やはりアクセス。無料バスが、1日1本でも出ると良い。そこにお金かけてもいいんじゃないか。

●本間明委員

暖簾や手ぬぐい等をグッズとして出し販売するのはどうか。グッズを買いたいという気持ちがある、ここまでくる理由になると思う。

やはり場所は課題。以前高島屋で展示のあったときは気楽に見に行った。今回はチラシを受取り、行きたいと思っているうちに三カ月が経過してしまった。例えば駅前で展示を行った後に展示作品を増やし巡回展を行うとか、プラスでワークショップを行ったり、講演会をしたりとか、何かとセットで企画を組むと良い。先ほども話があったが、摘水軒の寺嶋さんのコレクションを使用した企画も行っていたきたい。

●野尻幸子委員

ある程度芸術に関わっていても、今回の資料を見ると知らないことがたくさんあった。郷土資料展示室もそうだが、やはり広報により、多くの方に知っていただきたい。

●林久美子副会長

素晴らしい作品が柏市にあるということを、私たちの力でどんどんと広めていきたい。やはり場所が第一である。いくつかの代表的作品を、どこか多くの方々の目に留まる場所、例えばパレット柏などに出すと、市民の方々の反応も違うのではないかと。直接触れると、色々な気持ちが湧き上がってくる。芸術はそういう力を持っているので、もっと表に出していくような企画を考えていただけるとありがたい。

●鈴木将勝会長

今日説明いただいた内容、簡単なようで非常に勉強になった。この間一人で来たときは、さっと見て帰ってしまった。芹沢銈介が素晴らしい先生ということは知っているが、知識なく眺めただけでは、何の味気もなく終わってしまう。絵を見て、時代の流れを解きほぐして説明してくれると、理解が全く違う。そこで感じられた楽しみは、また来なくなる。やはり、この会場に来て、楽しんで勉強になるような仕組みを考えなきゃいけない。勉強になって楽しかった会場は、交通の便が悪くたって、来なくなる。芹沢銈介とはこういう人でこういう作品でと、解説がないと、市民に芸術の味は伝わらない。わからない人にも芸術の良さを伝えること、それが芸術の進化、進歩になる。

音楽も同様に、わからない人であっても、楽器を触ってこんないい音が出るんだと思ったら、感動して帰ってくれるはずだ。そういったPRを考えてほしい。

●事務局

広報が課題であると考えている。今回の展示では、今まで掲載していなかったウェブサイトにも新たに掲載し、新規層を獲得できた。また、去年幽霊画をメインに展示した「ゾッとする展」は人気が高く、普段来ない客層にも来場いただけた。企画内容や広報の仕方により、来場者数を増やせる可能性はあると思うので、本日いただいた意見をもとに、今一度考えていきたい。

●事務局

これにて本日の審議事項を全て終了とする。